

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月4日  
札幌市立北白石中学校

## 1. 本年度の学校運営の基本方針

「すべての子どもが『自分が大切にされている』と実感できる学校」

- (1) 子どもの立場に立つ
- (2) 信頼関係の構築を図る
- (3) 学ぶ楽しさを実感させ、学び合いにより深化させる
- (4) 自己有用感を育む

## 2. 本年度の学校運営の重点

- (1) 基礎・基本を定着させるために、学習への意欲を高め、学習習慣の確立を図る
- (2) 挨拶・言葉遣い・思いやりの心の重視
- (3) 気づき考え行動する生徒のはぐくみ
- (4) 小中一貫した教育を目指したパートナー校との連携
- (5) 特別支援教育、不登校支援の充実
- (6) 信頼される学校の創造

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	北白石中学校の経営方針や重点目標に基づいて、校務組織や教育課程の編成が行われている。	A	重点目標「気づき・考え・行動する」の更なる体現に向け、教職員の意識改革を重視します。後期評価で保護者の理解度が91.6%に達した一方、教員の「強い肯定」は47.6%に留まりました。次年度は各分掌の計画に、生徒の行動指標となる価値付けを紐づけ、日常的な相互評価ができる風土を醸成します。	A	A
	北白石中学校の特色や生徒の実態を踏まえ、教育課程、教育環境を生かして取り組んでいる。	A	行事の成功を日常の学びに還元する仕組みを強化します。問7の肯定評価が教職員100%に達した一方、問8の生徒会活動への強い肯定は52.4%に留まりました。次年度は生徒の協働場面を増やし、生徒が教育環境を自ら改善する機会を年間通じて提供することを目指します。	A	A
	「対話」を重視し、すべての生徒が「自分が大切にされている」と実感できる教育活動を行っている。	A	生徒の相談実感(問9:肯定79.8%)をより高めるため、生徒理解につながるアセスによる見取りやICTを活用した日常的対話を強化します。特に保護者の評価が85.2%まで向上した一方、生徒との認識差を埋める必要があります。生徒の小さなサインを迅速に拾い上げる対話型支援体制を確立します。	A	A
学校関係者評価委員による意見		達成A状況のまま持続をお願いします。			
学習指導	「学ぶ力」(確かな学力や活用力)を育てるために、学習意欲を高め、学習規律を身に付けさせる取組が行われている。	A	学習規律を定着させながら、「質」の向上にも取り組みます。問2で保護者の強い肯定が40.2%へ倍増した成果を活かし、次は教職員の強い肯定(23.8%)の回復を図ります。教師がすべての生徒が学べる学習環境を整え、生徒相互の共同学習を取り入れるなどして、生徒が自律的に学ぶ意欲を醸成し、確かな学力向上へ繋げます。	A	A
	北白石中学校では、子どもが生活習慣を効果的に振り返ることができる取組が行われている。	A	生徒の自己評価基準を具体化します。問3の保護者肯定評価は87.8%と良好ですが、教職員の強い肯定が19.0%へ急落しました。この認識差を埋めるため、生徒自身や生徒間相互による対話や振り返りの機会を取り入れていきます。家庭と連携し、改善目標を共有する仕組みを強化します。	A	A

(様式2)

	道徳、総合的な学習の時間は、ねらいをおさえ、内容が適切に実施されている。	A	道徳の成果を他教科へ波及させます。問6で保護者の肯定評価が90.3%へ急増し、教職員自己評価も100%に達した成果を活かし、総合的な学習でも社会課題や自分の生き方を見つめ課題解決型学習を強化します。学んだ「豊かな心」を実社会で実践し、生徒の主体性を引き出すことで、強みをさらに伸ばす教育課程を編成します。	A	A
	特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)が効果的に設定・実施されている。	B	行事の熱量を生徒会活動の活性化へ繋げます。問7(学校行事)で教職員肯定100%を達成した一方、問8(生徒会)の強い肯定は52.4%に留まりました。次年度は、行事の取組が単独で完結せず、他の学習活動や生徒会活動とも関連性が図られ生徒が年間を通じて主体的に参画し、自治力を強化します。	B	A
	学校関係者評価委員による意見	次年度は、B評価からA評価になるよう、期待しています。			
生徒指導	生徒理解を目的とした教育相談や実態調査を通して、適切な対応や指導が行われている。	A	相談の「質」と「即時性」を向上させます。問9(相談体制)の保護者評価が85.2%まで上昇した一方、生徒は79.8%に留まり、約5ポイントの意識差があります。今後は年2回の面談に加え、ICTを活用したアセスに取り組みました。今後も継続しつつ、生徒の小さなサインを迅速に可視化・共有します。	A	A
	基本的な生活習慣や規範意識を育み、落ち着いた学校生活を送るための指導が行われている。	A	家庭と連携した規範意識の再徹底を図ります。保護者肯定評価は86.3%と良好ですが、教職員の「強い肯定」は38.1%に留まり、指導の定着に課題意識があります。次年度は「生活のきまり」を生徒・保護者と共同で再構築し、数値化された振り返りを行うことで、規律への納得感を高めます。	A	A
	自分や相手を思い、いたわる心を育て、いじめ防止の取組が行われている。	A	生徒会による「いじめ防止キャンペーン」などの企画を継続しつつ、生徒が主体となった活動を増やします。問13の保護者肯定評価は91.0%と高い一方、教職員の「強い肯定」は38.1%に留まりました。この乖離を埋めるため、道徳での学びを活かした「いじめゼロ宣言」等の主体的な活動を年間計画に組み込み、多角的な実態把握を継続します。	A	A
	特別支援教育、不登校支援など、個に応じた校内体制が整備されている。	B	個別の指導計画の活用と外部連携を強化します。問10の保護者肯定評価は82.1%と高い一方、教職員の「強い肯定」は38.1%に留まり、支援の質の向上に課題があります。次年度はSCや関係機関と連携を強化し、全教職員で支援方針を共有し、組織的な個別対応を徹底します。	B	A
	学校関係者評価委員による意見	改善の適切さに期待しています。			
その他	学校事故等の緊急事態発生への対応、個人情報等の管理が適切に行われている。	B	教職員間の管理意識の平準化を推進します。生徒指導に関わる研修会による情報共有や避難訓練の実施などの内容をさらに深化させながら継続します。個人情報等の管理についても、年間を通して研修や情報共有を図り、安心安全な学校の実現を目指します。	B	A
	「開かれた学校」をめざし、PTA、保護者、地域や外部機関との連携した活動を行っている。	A	家庭や地域との連携の「質」を向上させ、学校の取組をより可視化できるようにします。保護者肯定評価は概ね良好ですが、教職員の「強い肯定」はやや低めです。次年度はCS(コミュニティースクール)の具現化を検討しながら、家庭や地域と目的を共有した仕組みや協働活動の具体化を検討し、組織的連携を深めます。	A	A
	ホームページやおたより等、学校からの情報発信を充実させている。	B	情報の「双方向性」と「速報性」を強化します。問15の保護者肯定評価は前期よりも10ポイント以上改善されている一方、他の質問項目に比べて数値が低く、まだまだ課題が残っている。HPの活用をさらに引き上げ、アプリの活用も加えながら、発信の意義を組織全体で再確認します。	B	A
	小学校との連携や地域と一体となった教育活動を重視している。	A	義務教育9年間を見通した連携を具体化します。行事や生徒会での小中の子どもの交流を増やしました。今後もパートナー校間の教職員の情報共有を強化し、共通の指導規準や育成の指針を確認していきます。地域の活動への参画数も増えるよう働きかけ、組織的協働を促進します。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	次年度は、B評価からA評価になる様、期待しています。現場の先生方はいそがしいと思いますが、さらなる成長を願います。			